

日本原水協FAXニュース

発行:原水爆禁止日本協議会 電話:03-5842-6031 2011年
FAX:03-5842-6033 Eメール:antiatom55@hotmail.com 4月30日

5月6日国民平和大行進の出発に呼応し、 全国すべての市町村で6・9行動を成功させよう

私たちがこれまで経験したことの無い巨大地震と津波、原発事故の三重被害のなかで、国民的にも国際的にも、被災者の救援と復興のための新たな絆、連帯が生まれています。

広島、長崎の被爆の国民的体験を原点とし、被爆者援護・連帯を基本目標の一つとして掲げてきた日本原水協が、いまその真価を発揮すべき時です。

いよいよ5月6日、2011年国民平和大行進が東京・夢の島をスタートします。ことしの平和行進は、大震災と原発事故被災者の救援と「核兵器全面禁止」の取り組みをつなぎ、国民的な連帯を発展させる歴史的な行進となります。

4月26、27日の第295回常任理事会では、核兵器全面禁止の運動に被災者・被災地の支援の国民的な努力を合流させ、2011年世界大会を次のステップを踏み出す画期的な大会として成功させることを決意しました。5月6日は、その最初の全国的行動の日です。大きな被害を受けた岩手、宮城、福島を含む東北6県の代表から、被災者への励ましを込めて、震災復興と核兵器の全面禁止をかかげて平和行進を成功させる強い決意が表明されました。

「全国は一つ」を合言葉に、国民平和大行進を成功させましょう。そのためにも5月6日のスタートに合わせて、すべての市町村で6・9行動に立ち上がり、「核兵器全面禁止のアピール」署名に足を踏み出しましょう。

2011年4月30日 原水爆禁止日本協議会

茨城県原水協

北茨城市長に救援募金手渡し懇談



▲豊田市長（左）へ募金を手渡す加藤会長
（4月28日、北茨城市役所）

茨城県原水協の加藤岑生会長は第295回常任理事会の翌28日、北茨城市を訪問し、豊田稔市長に救援募金を渡し、石田奈緒子副市長とともに懇談しました。

北茨城市は6人の死者・行方不明者を出し、平潟港、大津港、五浦にある横山大観が建てた六角堂が流失などの津波被害を受けました。

「身命をかけてこの震災を復旧するために頑張っています」と忙しいなかにも関わらず応対してくれた豊田市長は、昨年、広島を訪れ、小学生の平和教育として百聞は一見に如かずだと思ったこと、今年の夏、市として小学生の代表を広島へ平和大使として派遣することを決めたこと。さらに、「今回の福島第一原発事故の放射能の影響は、地震と津波の被災復旧に忙殺され後回しにしていたが、小中学校の校庭の放射能の測定を行った」と話してくれました。

「核兵器全面禁止のアピール」署名にも賛同

また平和市長会議に加盟し、前回の署名も協力を得ている市長に、今回の「核兵器全面禁止のアピール」署名をお願いしたところ、副市長とともに快く賛同してくれました。

私たちがこれまで経験したことの無い巨大地震と津波、原発事故の三重被害のなかで、国民的にも国際的にも、被災者の救援と復興のための新たな絆、連帯が生まれています。

広島、長崎の被爆の国民的体験を原点とし、被爆者援護・連帯を基本目標の一つとして掲げてきた日本原水協が、いまその真価を発揮すべき時です。

2010年国民平和大行進スローガン変更

◇東日本大震災の被災者・被災地を支援しよう
◇原発依存をやめ、自然エネルギーへの転換を